

呼吸器・膠原病内科カリキュラム

I. 目的と特徴

呼吸器・膠原病内科研修では、呼吸器疾患、アレルギー疾患、膠原病の診断と治療に必要な基本的診療能力を習得することを目的としています。

徳島大学呼吸器・膠原病内科では、呼吸器疾患、全身性炎症性疾患である膠原病の診療を通じ生理学、生化学、薬理学、微生物学、免疫学、画像診断学など幅広い知識を学ぶことができます。それとともに専門医に直接指導を受けながら呼吸器内科医、膠原病内科医の基本的技能である胸水穿刺・胸腔ドレナージ、気管支鏡検査、喀痰グラム染色、チールニールセン染色等の手技を習得すること、呼吸機能、血液ガス検査結果の解析、胸部レントゲン検査、関節写真、胸部 CT、胸部高分解能 CT 等の読影力の向上を目指します。患者・家族への説明、インフォームド・コンセントの取得を通してコミュニケーション能力の向上にも努めます。

II. 研修責任者

曾根 三郎 教授 (日本内科学会認定内科医、リウマチ専門医指導医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本癌治療学会臨床試験登録医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本感染症学会認定 ICD)

III. 運営指導体制および指導医数

教授 1 名、准教授 1 名、講師 3 名、助教 6 名、医員 8 名。研修医 1 名につき、1 人の指導医が選任され、入院患者の診療を共同で行います。日本内科学会専門医は 3 名、日本呼吸器学会専門医 8 名、リウマチ専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本がん治療認定医機構暫定教育医 4 名がいます。

IV. 臨床実績

外来患者数は 1 日に約 110 人、気管支鏡件数は年に 2-300 人、入院患者総数は年に 4-500 人です。診療内容は、悪性呼吸器疾患（原発性肺癌、胸膜中皮腫等）、良性呼吸器疾患（肺炎、COPD、気管支喘息、間質性肺炎、肺結核、睡眠時無呼吸症候群等）、膠原病（関節リウマチ、SLE、強皮症、多発性筋炎、血管炎等）など幅広い領域の疾患についての診療を行っています。がん化学療法外来、禁煙外来など特殊外来も行い社会のニーズに応じた外来診療も行っていきます。

V. 研修目標

一般目標：

(外来) プライマリ・ケアを含む外来診療を適切に実施する能力を養う。

(病棟) 呼吸器・膠原病内科医として基礎的臨床能力を持ち、入院患者の全身管理が適切に行える。

行動目標：

1. 担当した患者の適切な病歴聴取、診察を行うことができる。

呼吸器疾患、膠原病の症状を理解し適切な病歴聴取を行い、必要な理学的所見(胸部所見、関節所見等)を取ることができる。また、担当患者の基礎疾患や合併症の診療を通じて内科医として必要な知識もあわせて身につける。

2. 1の結果に基づき、適切な検査を選択し所見を判定できる。

病歴、身体所見より診断、重症度、活動性の判定に必要な検査を選択できる。

生理検査：呼吸機能検査、ポリソムノグラフィー等

検体検査：喀痰細菌検査、抗酸菌検査、細胞診、検尿等

画像検査：胸部 X 線、胸部 CT、関節 X 線、気管支鏡検査等

血液検査：検血、生化学、血清学、腫瘍マーカー、各種自己抗体等

3. 1, 2の結果を総合的に解析して、診断や重症度の判断ができる。

各種呼吸器疾患、膠原病の概念、病態、検査異常を理解し、得られた病歴、身体所見や検査データを解釈し診断、重症度診断を行い、個々の患者さんの状態を判断できる。

4. 3の判断に基づき適切な治療を選択し、初期治療や救急の処置を行うことができる。

得られた診断や重症度、合併症の情報を基に、患者の年齢、社会的バックグラウンドにも配慮し、適切な治療(抗生剤、抗がん剤、副腎皮質ステロイド剤、免疫抑制剤、分子標的治療薬、生物製剤等)を選択することができる。

5. 行った処置や初期治療の結果をフィードバックし、副作用対策を含めた長期的な治療戦略を計画できる。

行った治療の効果、副作用の有無、合併症への影響を理解し、患者の年齢、病状、治療の継続性の可否も総合的に考え、最適な治療を選択することができる。

VI. 研修内容

(外来)

新規受診患者さんの病歴聴取を行い、カルテの記載方法を学ぶ。平行して鑑別診断を考え初期検査計画を立てる能力を身に付け、プライマリーケアに対応できる能力をつけることを目標とする。また、救急患者を指導医とともに診療することで救急医療にも対応できる基礎力をつけることも併せて学びます。

(入院)

指導医とともに担当医として患者さんの診療に携わり、病歴聴取、身体所見の取り方を身に付ける。診断、適切な治療計画を立案できる力を身に付ける。患者・家族に正しく情報を伝える訓練を行い総合的な診療能力を養うことを目標とします。また、指導医とともに担当患者さんに必要な医学的処置を行い、呼吸器・膠原病診療に必要な手技を身につけていきます。

VII. 研修スケジュール

呼吸器、アレルギー・膠原病患者さんを担当する。担当患者の診断、治療、説明には責任をもってあたり、カンファレンス、回診では、症例提示を行います。

病棟回診	: 月曜日～金曜日
気管支鏡検査	: 月曜日 午前、木曜日 午前
総回診	: 水曜日 午前
カンファレンス	: 月曜日 夕方、水曜日 午前
抄読会	: 金曜日 夕方

VIII. 評価法

研修責任者と指導医が研修態度、症例提示、患者さん・家族・スタッフへの対応、知識・技術の習得度などを総合的に評価し、研修終了時にフィードバックをします。最終的評価はオンライン臨床研修評価システム（EPOC）を用いて行います。